

大阪学芸では、学校が自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、適切に説明責任を果たして保護者の理解と参画を得て学校づくりを進めていくため、自己評価や学校関係者評価に加えて、第三者評価を導入することにより、学校評価全体の充実を図っていきたいと考えています。

1 大阪学芸「学校評価の体系」

大阪学芸では、「自己評価」、「学校関係者評価」及び学校運営に関する外部の専門家等による「第三者評価」からなる学校評価を実施します。

(1) 自己評価 「校内評価委員会(校務会)」

大阪学芸は、校長以下、教職員から構成される校内評価委員会(「校務会議」がその任を担う)を組織する。校内評価委員会は、年度当初に「部門別活動計画」を作成し、1年間の教育活動の目標数値を設定し、進捗状況を職員会議で報告し共通認識を図りながら年度末に達成状況を検証します。また、教職員による学校評価にとどまらず、生徒による「授業アンケート」・「学級経営評価アンケート」・「生活環境アンケート」保護者アンケート」「教職員アンケート」を実施し、本校の目標達成状況等を検証することを通して、学校の現状と課題を明らかにし、教育活動その他の学校運営の改善を図ります。

ア、学校評価の実施に当たるアンケート調査は、総務部と教務部が担当します。

イ、生徒による授業評価・学級経営評価については、その結果を教科担任・学級担任にフィードバックします。

ウ、新任教員については、上記評価表をもとに管理職面談を実施していきます。

エ、生活環境調査の結果は、学校評議委員会等にも報告し学校の自己評価にも活かしていきます。

(2) 学校関係者評価 「学校評議委員会」

大阪学芸は、生徒の保護者やその他の学校関係者等により構成される学校関係者評価委員会(「学校評議委員会」がその任を担う)を組織します。

学校関係者評価委員会は、校内評価委員会による自己評価等の結果を評価することを通して、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校・家庭が学校の現状と課題について共通理解と相互の連携を深め、学校運営の改善への協力を一層進めることを目的として評価を実施します。

ア、学校評議委員会は、学校の理事および現・元保護者により構成します。

イ、任期は、1年更新とする。

ウ、学校評議委員会は、年2回開催し、上記の学校自己評価を含めた学校の現況について意見交換を行います。

(3) 第三者評価 「学校協議会」

大阪学芸は、第三者評価を実施するため、学校運営に関する外部の専門家等による第三者評価者(「学校協議会」がその任を担う。)に調査を依頼する。第三者評価者は、各学校の自己評価及び学校関係者評価の結果を踏まえ、より専門的、客観的立場からの評価を行います。

ア、第三者評価委員会は、理事長・校長・法人事務局・第三者委員により構成します。

必要と認められた時は、教頭及び関係教職員を招集します。

イ、第三者委員の任期は、2年とし更新を認めます。

ウ、第三者委員に対する交通費は支給します。

2 中期学校経営方針等への反映

大阪学芸は、学校評価の結果を踏まえた改善策を策定し、「中期学校経営方針」及び「学校経営計画」に反映するよう努めます。

3 学校評価の結果の公表

大阪学芸は、実施した学校評価の結果及び改善策について、ホームページ等適切な方法を用いて公表します。

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】

「豊かな人間性をはぐくみ、社会に貢献できる青年を育成する」という建学の精神をもとに激動する社会の中で求められる 21 世紀型教育を推進し、座学によって獲得した知識を柔軟に活用する思考力、与えられた情報の中から課題を解決するための要素を読み取り整理し、分析し、その解決法を様々な意見を調整し導き出す能力を持った生徒を育成し、いかなる変化にも対応できる人間を育成していきます。

【生徒像】

「気づく心」「考える力」「チャレンジ精神」を教育の 3 本柱とし、すべての教育活動を通して、次のような生徒を育成します。

- 社会的規律を尊重し、豊かな情操を身につけた品位ある生徒
- お互いの人権を尊重し、学校や地域社会の中で協力・共同できる生徒
- 自主的、自律的な学習態度で学力の向上をめざし、異文化に触れることによって、21 世紀を担う若者にふさわしい国際的な視野を持った生徒

2 中期的目標

各部・各学年で「基本的生活習慣の確立と大学進学実機の向上」という重点目標達成を目指して「部門活動計画」（部門目標シート）を作成し、成果目標の数値化を行い、その目標を達成するための具体的な行動計画を立てます。4 月に目標設定、9 月と 1 月に進捗状況の報告、3 月に目標達成の結果と次年度への課題を校務会議、職員会議で発表し共通認識を図り課題を明確化していきます。

※ 今年度は授業・学級経営等のアンケートは業者を変え、より教員が自己分析しやすいものに改めました。評価は「プラス評価」－「マイナス評価」で「指数」があらわされるものとなっています。したがって昨年度まで 80%以上を A 評価、60%以上を B 評価、40%以上を C 評価、40%以下を D 評価としていましたが、今年度から「60 指数以上」A、「20 指数以上」B、「－20 指数」以上 C、「－20 指数以下」を D 評価と考えて分析しています。

1 生徒指導を根幹に据えた学習指導と生徒のニーズに応えられる進路指導をめざします。

(1) 基本的生活習慣の確立

- 学力向上の基盤は「基本的生活習慣」の確立なくしてあり得ないという教育信念から昨年度に引き続き「挨拶のできる生徒」「ルールを守れる生徒」「人の話を聴き自分を変化させることのできる生徒」の育成に努め、自己管理能力(自制心とチャレンジ精神)を高めます。
- ア、社会人としては許されない「遅刻」の防止に自ら努める自己管理能力を育成し時間を守ることの大切さを自覚させていきます。
- イ、いじめを許さない「学級」「学年」「学校」文化を作り出し、生徒全員が安心して登校し学習できる学級・学校を目指します。
- ウ、社会人として巣立つにふさわしい服装・マナーの向上に努め保護者から信頼される教育環境を作り出します。
- エ、SNS やメールの使用上のマナーを含め、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションができるように指導します。

(2) 学力向上と進路実現

学力向上の基盤は、生徒の「自己管理能力の確立なくしてあり得ない」という教育信念から昨年度に引き続き、教科学習、講習等を通して自習の時間の使い方を学ばせるとともに 2 年目となる「学芸手帳」の利用を促進し生活習慣を見直し時間の使い方の工夫から短期・中期・長期と計画的に学習する習慣を定着させていきます。

保護者・生徒の願いである「4 年制大学進学」という目標を実現できるように進路ガイダンスを行い、希望進路の発見・実現に寄与するため教育課程を編成(選択授業での対応や多様な講習の実施)するとともに「電子黒板」を利用した公開授業を行い授業改善に努めます。

教員の授業力を高めていくため「生徒の授業アンケート」(年 2 回)を基に教職員間の相互授業参観等を実施し、授業内容の点検や教授法の改善に取り組みます。

- ア、授業アンケートを実施し「自己の授業の振り返り」を行わせ改善点の事故点検を行うとともに授業力を向上のための相互授業参観を行い「授業に対する信頼度」「学習効果への実感度」等を伸ばし生徒の満足度を高めます。
- イ、自ら課題を見つけ能動的に学ぶ習慣作りの一環として漢検・英検・数検などの資格試験受験者を増やしていきます。
- ウ、生徒の多様なニーズに応えるために教育課程の編成、多様な講習の機会を設定し進路指導を充実させていきます。
- エ、管理自習室・e-learning システム・駿台サテネット教室・校内予備校の活用を通して、自学自習しながら学ぶコツの具現化を図ります。
- オ、ICT 教育を推進するために平成 27 年 4 月導入の電子黒板を使った公開授業を実施し、さらなる授業改善策を研究していきます。

(3) 社会に貢献できる資質の育成

21 世紀は「正解のない時代」と言われています。この時代を生き抜いていかなければならない子どもたちにとって必要な資質は、さまざまな価値観を持つ人たちの意見を聞いて、新しい正解を作り出していく協調性・リーダー性・調整力だと言われています。教科の学習だけではなく、学校行事やクラブ活動、ボランティア活動等さまざまな体験学習を準備し生徒に成功体験を積み重ねさせる中でこれらの力を育成していきます。

特に子どもたちの生活の基盤となる「クラス」において互いに助け合う精神の確立が大切だという認識のもとに教育活動を行っていきます。

- ア、ボランティア活動やセレッソとのサポーターズマッチ、エコ活動、地域清掃活動を通して社会への関心を高めるとともに奉仕の精神を育成します。
- イ、部活動を活性化させ、勝利をめざし努力する過程で持続力や耐性を養い、仲間と協力しあう姿勢(協調性)を育成します。
- ウ、体育大会や文化祭等の行事を通して他者への思いやりや自分の意見をわかるように相手に伝える力(コミュニケーション能力)、調整力を育成します。

2 保護者に信頼される学校づくり

(1) 保護者への情報提供

公立小中学校と違い「校区という地域」を持たない高校は、保護者との連携をいかに図っていくかが大きな課題といえます。そのためには子どもたちが担任をはじめ教職員を信頼し、学校生活を充実して過ごしている姿を保護者が感じることができるようにならなければなりません。また、「進学校」として進路指導を充実していくことも欠かせません。成績懇談や保護者集会を充実し生徒や保護者が知りたい情報発信となるように情報の質を高めていきます。

- ア、保護者の学校への信頼度(生徒・保護者へのきめ細かな対応と学校生活の充実)を高めていきます。
- イ、学校からの情報発信力を高め、ホームページの閲覧者数を向上させ、開かれた学校づくりを通して保護者との信頼関係を深めます。

ウ、成績懇談や進路ガイダンスを充実し保護者・生徒に質の高い豊富な情報を発信し幅広い選択肢の中から進路を決めていくことのできる環境づくりに努めていきます。

(2) 危機管理体制の確立

地球温暖化の影響から豪雨・巨大台風の上陸をはじめ、いつ来るかも知れない地震への対応を考え、生徒の安全を第一にした防災体制を構築していくことが求められています。このため、交通機関が遮断されたり、大和川の水位上昇で帰宅困難となった場合の対応を関係機関と連携し構築していきます。

ア、避難訓練(火災時の避難経路と地震時の避難経路の区別)を通して集団で避難するときの心得を育成し、災害に備えます。

イ、学校として帰宅難民となる生徒が出た時を想定した避難物資等の準備体制や保護者との連絡体制を整えていきます。

【自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

【自己診断の結果と分析】	【学校協議会からの意見】
---------------------	---------------------

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基 本 的 生 活 習 慣 の 確 立	1 規律ある学校生活の確立 (1) 規範意識と自律性の育成 (2) いじめを許さない学校づくり (3) 教員の生活指導力の向上 以上の三項目を達成する中で学習環境を整え学力向上をめざします。	現在の高校生に共通する意識＝自分たちが「面白ければよい」と考え「ノリ」で物事を進めたり、発言したりする傾向に歯止めを掛け相手の立場に立って物事を判断する力を育成することが急務となっています。特にツイッター等の使用方法の間違いから「いじめ事象」に発展しないように「考えて行動する習慣」の確立を目指します。 (1) 遅刻防止週間・服装違反撲滅週間等を定期的実施し、生徒の規範意識向上を図ります。 ○指導カードの発行による啓発 (2) 記名・自宅持ち帰りの「いじめアンケート」を実施し、担任・学年主任・生活指導部・管理職による点検で共通認識を図りいじめを許さない学校づくりに専念します。 ○いじめ対策委員会の実施 (3) 学級の係活動や清掃活動を協力して行う雰囲気を作り真面目な生徒が損をしない、担任に不信感を抱かない学級づくりを行います。 ○教室の環境整備 (4) 学級経営についての研修を実施します。 ○職員朝礼、職員会議、学年会等での相互点検を図っていきます。	(1) 基本的な生活習慣確立のため各学年共に「一人あたりの遅刻回数」を1・2年間3回以内、3年5回以内とします。 (2) 「先生がいなくてもほとんどの生徒は服装・持ち物などのルールを守っている」という指数を60以上とします。 (3) 担任は「生徒の態度や行動が間違っているときはきちんと叱ってくれる」や「自分のクラスは規律ある雰囲気の中で生徒たちが過ごしている」という指数を60以上とします。 (4) 学級経営において「生徒間のトラブルは少なくクラスメートを大切にす風土がある」という指数を60以上とします。 (5) 学校生活全般を通じて「この学校にはいじめは少ない」という指数を60以上とします。 (6) 「自分のクラスはいつも清潔で整理整頓が行き届いている」という指数を60以上とします。 最後に学級経営・生活指導についての研修を積み重ねていきます。	
	2 学力向上と進路実現に向けた取り組み (1) 生徒による授業満足度の向上 (2) 自学自習の態度を養成し意欲的に学習する姿勢を身に着ける。 (3) 希望進路の発見と実現に	授業力評価のアンケートを分析すると授業を受けて「学力向上実感」があると評価された先生は「好感度」においても高い数値をあげています。本校の保護者の願いは、「4年制大学への進学実績」「学力と知力の育成」という結果が保護者アンケートから読み取れます。 このためにも教師に望んでいるのは「きめ細かな学習・進路指導」	【学力向上】 (1) 教員の「好感度指数」を60以上とします。 (2) 「先生の授業を受けることにより学力や知識の向上を実感できる」という学力指数を60以上とします。 (3) クラスにおいて「授業時間は集中して授業を受け	

	<p>寄与する。</p>	<p>となっています。</p> <p>この保護者の信託に応えるために次のような取組をおこないます。</p> <p>(1) 授業力の向上をめざし、7月実施の1回目の授業評価で「何が評価を下げる原因となっているのか」「登勢の点を改善すればよいのか」を自己噴石させます。また、相互授業参観、ベテラン教師による若年教師の指導を充実します。特に新任講師に対しては、授業参観・レポートを作成させ教科会を充実します。また、主任を中心に担任・教科担任がクラスの授業の状態を把握し、問題がある場合はすぐに改善策を打つ体制を整備します。</p> <p>(2) 各種検定試験の受験率をアップさせ、学習意欲を喚起します。</p> <p>(3) 多様な進路希望に即した学習指導を充実します。</p> <p>(4) ICT 教育環境の整備に向けた研修活動を始めます。</p> <p>○電子黒板とタブレットを使った公開授業の実施。</p>	<p>る生徒が多い」という指数を60以上とします。</p> <p>【進路指導】</p> <p>(4)「今の学校は希望進路の発見や実現に役立っている」という指数を40以上とします。</p> <p>(5)「入試や進学に必要な情報が十分に提供されている」という指数を40以上とします。</p> <p>(6)「進学講習が学力の伸長につながった」という指数を60以上とします。</p> <p>(7)「明確な目標がありその実現に向けて前向きに取り組むことができている」という指数を60以上とします。</p> <p>(8)電子黒板を利用した公開授業を5教科で実施します。</p> <p>(9)英検準2級以上の資格保持者25%以上とします。</p>	
<p>3 社会に貢献できる資質の育成</p>	<p>3 社会性の育成</p> <p>(1) 助け合う雰囲気あふれるクラスづくり</p> <p>(2) 部活動の活性化</p> <p>(3) ボランティア活動の充実</p> <p>(4) 学校行事の充実</p>	<p>学校教育の目的は、教科指導による学力の向上とともに多様な体験活動を通して集団の中で協調性や耐性、社会性を育てることも大切な使命です。本校が「両立」を合言葉にすべてのコースで部活動を可能としている理由もここにあります。</p> <p>(1) クラス経営力を向上させるため学年会での相互点検・改善を進めます。</p> <p>(2) クラブ活動の成績と普段の学校生活は密接に関係することを指導しクラブと学習の両立を図ります。</p> <p>(3) ボランティア活動の充実</p> <p>地域清掃が集う、大阪マラソンボランティア活動への参加、セッション大阪とのサポーターティングマッチへの参加を積極的に進めます。</p> <p>(4) 生徒の自主性を育てる学校行事を促進します。</p>	<p>(1)「クラス全体の結束力が強く行事の中で達成感や一体感があると感じる人が多い」「困っているクラスメートがいれば誰に対しても手助けをする生徒が多い」という指数を60以上とします。</p> <p>(2)「部活動についても明確な目標があり、その実現に向けて前向きに取り組むことができている」という数値を60以上とする。</p> <p>(4)「学校はいろんなことを体験させてくれる」「体育大会や文化祭も楽しい」という指数を60以上とします。</p>	
<p>3 信頼される学校づくり</p>	<p>3 保護者との信頼関係の醸成</p> <p>(1) 保護者と信頼関係の構築</p> <p>(2) 進路情報の発信</p> <p>(3) 防災教育への取り組み</p>	<p>高校は公立小中学校のように地域を校区として持たないために保護者への情報発信(学校生活充実度と進路情報の発信度)が信頼関係を築いていく上で大切な要素となっています。また、防災訓練等の安全生活に対する取組も緊急の課題であるという認識しています。</p> <p>(1) 担任のきめ細かな対応</p> <p>体罰・暴言のないクラス・クラブ経営と教科指導を確立するための職員会議等を通じた啓発活</p>	<p>(1)「入学前と入学後の学校のイメージは子どもに聞くと良くなった」という数値を60以上とします。</p> <p>(2)「知人や将来は子どもに本校を紹介してもよい」という数値を60以上とします。</p> <p>(3)担任は「生徒に対する言葉遣いや態度は丁寧で適切であると感じることが多い」という数値を60以</p>	

		<p>動を進めます。</p> <p>(2)ホームページのリニューアル スマートフォンにも対応したホームページを作り保護者への情報提供を密にして開かれた学校づくりを行っていきます。</p> <p>(3)授業参観や進路・生活指導についての保護者集会を充実 教員と保護者の距離感を縮め話しやすい環境づくりを行います。</p> <p>(4) 防災教育の充実 ○避難訓練(火災時と地震時に分けて)の実施と防災備品の整備を行います。</p>	<p>上とします。</p> <p>(4)「学校は一人ひとりの生徒を大切にしてくれる」という数値を 60 以上とします。</p> <p>(5)学校からの情報発信源となるホームページの閲覧数を 22,000/月以上、直帰率を 17%以下とします。</p> <p>(6)進路部長からの保護者対象の進路講話の充実と進路だよりを発行します。</p> <p>(6)大和川決壊や地震等災害による帰宅困難者対応を行います。</p>	
<p>補 足</p>	<p>朝食提供事業 本校には遠方から通学する生徒、クラブ活動のために早朝から登校してくる生徒、さまざまな事情で朝食を食べないで登校してくる生徒がいるために今年度より朝の 7:15 より食堂で一食 200 円の朝食を食べることができるようにしています。朝食は一日の脳へのエネルギー源となり学習にも大きな影響を与えるものであり、万一、朝食を食べていない場合はいつでも食べることでできる環境を作っています。</p>			